

指定管理者評価シート

一 管理運営の状況

1	施設名	仙台文学館	
2	指定管理者	公益財団法人仙台市市民文化事業団	
3	指定期間	平成29年4月1日～令和4年3月31日	
4	施設の利用状況	《利用者数》	平成30年度 54,225人 (前年度比△12.9%) 平成29年度 62,267人 平成28年度 56,908人 平成27年度 63,929人
		《事業》	・施設の管理運営 ・特別展等の企画及び開催 ・文学資料の収集、保管
5	収支の状況	《費用》	()は前年度決算額 ・ 指定管理者に支払った費用 202,584千円 (197,944千円) ・ その他市が負担した費用 2,251千円 (76,464千円)
		《収入》	・ 使用料収入 6,748千円 (7,552千円) ・ その他収入 1,030千円 (1,362千円)
6	利用者の声	《実施状況》 ・ ご意見箱を設置して、常時意見をいただいている。 ・ 特別展や企画展ごとのアンケートを実施。 ・ 施設利用者アンケートの実施 (H30年12月)	

二 管理運営に係る評価

(モニタリングシートの結果によって評価)

評価分野	所見	評価
I 総則	施設の設置目的や基本方針について、職員間でしっかり理解しているとともに、利用者へ対しても適切に周知している。展示だけではなく、文学関係団体との事業の共催や文学について深く学べる講座を多様な内容で数多く実施しており、文学館の設置目的に適した取組みを積極的に行っている。	27/27
II 施設の運営管理体制	職員の業務実績や配置、仕様書や事業計画に即した業務の実施状況等は適切である。また、経理についても帳簿の整理・保管や市への報告など適切に実施されており、個人情報等の情報管理についても市の規定に準じ、しっかりと取り組んでいる。また、災害時のマニュアルの整備や基準以上の消防訓練を行うなど、危機管理対策も優れている。	30/30
III 施設・設備の維持管理	法定点検のほか、定期的に設備や施設の自主点検を実施している。老朽化等による不具合等について速やかに市へ報告するとともに、委託業者との連携により利用者にとって不便のないよう、応急措置等についても速やかに実施するなど、安全面や快適な利用環境に対する意識が高い。樹木に囲まれた環境に立地しているため、台風や豪雨等があった際には、倒木の点検を行い、速やかに市への報告を行っているほか、倒木の恐れのある樹木について調査を行い、優先度を決めて伐採を行っており、屋外の管理についても適切になされている。	24/24
IV サービスの質の向上	定例ミーティングや新任研修、OJT等により接客マナーや必要な情報をしっかり身に付けており、受付スタッフや職員の利用者への対応は非常に丁寧である。館内における情報発信のほか、ホームページやフェイスブック、ツイッター、市政だより等の幅広い広報手段を活用し、広い世代へ情報が行きわたるよう取り組んでいる。毎週、委託業者を含めた全職員のミーティングを実施し、施設の状況や利用者の声、課題等を共有しており、サービス水準の向上が常に意識されている。	28/28
V 施設固有の基準	業務における事前の市との協議及び承認手続きが漏れなく実施されている。定期的な自主点検の実施により、施設の不具合を速やかに察知し、応急措置や市への報告等、適切になされている。展示内容や展示関連イベント、各種講座については、学芸員の創意工夫のもと企画がなされており、平成30年度は、初めて漫画を題材とした「ガラスの仮面展」を開催し、新たな客層の獲得にもつながった。文学への関心度や習熟度によらず、幅広い層にアプローチする姿勢をもって事業企画を行っており、子ども向け企画である「夏休みこども文学館」は平成30年度の展示中最多の入場者数となるなど、企画の充実が図られている。入館者数の増加及び施設の活性化に対して、特に積極的な取組みを見せており、評価に値する。また、講座においては、小説、詩、短歌等、様々な文学分野の講師を招き、知識の向上のみならず、実践的な創作等も行っており、文学を学びたい人々に多くに貢献できる優れた内容となっている。	49/48

三 その他特に評価すべき優れた取組み

(指定管理者の優れた取組みを評価する 加点要素)

評価すべき取組み	評価すべき理由
加点評価	
—	

四 評価総括

《指定管理者（(公財) 仙台市市民文化事業団）による自己評価》
<p>施設の管理運営については、仙台市の施設所管課との定期的な打ち合わせのほか、電話、メールなどにより情報交換を行い、関係法令並びに協定書等に基づき適切に運営を行った。また、内部では毎朝の事務連絡のほか、毎週水曜日に各委託業者及び職員全員による情報交換を行い、連携して業務にあたることで、スムーズな市民サービスの提供を行った。</p> <p>観覧者については、20,633人となり、29年度と比べてやや減少したが、写真や漫画という、他分野とのコラボ企画を実施し、新たな客層の開拓に努めた。特に、秋の特別展「連載40周年記念 ガラスの仮面展」の観覧者数は7,323人を数え、大いに賑わった。</p> <p>入館者については54,225人、イベント参加者数は10,161人で、どちらも29年度より減少しているが、原因は、展示観覧者数の減少に伴うものと考えられる。他方、毎年開催している「ことばの祭典」、館長による「小池光短歌講座」や「仙台文学館ゼミナール」、「ライブ文学館」、こまつ座公演などは、例年並みの参加者数を数えている。また、広く文学の普及を図るため、学芸員の出前講座や職場体験などを積極的に受け入れ、好評を得ている。</p> <p>文学資料の取取・保存については、30年度は購入:896点、寄贈:999点を受け入れた。資料総数は約128,500点にのぼり、多くの方々の信頼を得て実績を積み上げている。今後の課題として、観覧者(特に若年層)増に向けた取り組みを多角的に検討していきたい。</p> <p>指定管理料確定額は、202,584千円であり、昨年度を4,640千円ほど上回っている。原因として、気候条件による光熱費の増が主となっているが、より一層の省エネや節電を検討し、経費節減に努めていきたい。</p> <p>施設の維持管理面では、開館から20年が経ち、各設備、特に建物本体や空調関係において経年劣化を原因とする不具合が頻発している。仙台市と協議をしながら修繕を実施し、様々な問題に適時に対応していきたい。</p>

《施設設置者（仙台市）による評価》	総合評価
<p>施設の運営管理に関しては、開館や施設貸出、帳簿等の整備保管を含む観覧料等などの公金の取扱い、保守点検や設備修繕・清掃等を含む施設の維持管理、個人情報保護や情報セキュリティ・情報公開への対応、事故や災害時等の危機管理体制の構築、その他施設運営に必要な書類の整備、諸手続きなど、関係法令や協定書に基づき、いずれも適正に実施されている。定例ミーティングや研修等を通して、業務の手順や必要な情報について職員間で共有されており、組織的な運営管理体制が構築されている。また、SNSの活用など、情報発信についても積極的である。</p> <p>平成30年度は、初の試みとして、漫画を題材とした「ガラスの仮面展」を開催した。新たな客層への働きかけを通し、来館者数の増加を図る取り組みとして評価に値するものであった。また、開館以来毎年開催している「夏休みこども文学館」も多くの関心を集めており、児童館との連携など、企画内容の充実が見られている。文学館の設置目的である「文学に関する知識の普及、利用者の教養の向上」について、幅広い客層を対象として捉えており、施設の魅力をより多くの方々に伝えていくことが十分に意識されている点を高く評価したい。</p> <p>講座の内容についても、様々な講師を外部から招き、幅広い視点から文学を学ぶことのできる内容となっており、職員と文学関係者との豊富なネットワークが十分に活かされ、利用者へ還元されているものと捉えている。</p> <p>今後とも魅力ある展示を企画いただくとともに、来館に繋がるような広報のあり方について十分考慮しながら取り組んでいただきたい。また、講座の実施や資料収集等、地域における文学知識の涵養に資する取組みも、当館の存在意義を高めるものとして、今後も継続していただきたい。</p>	S

◎ 評価担当課（施設所管課）：文化観光局文化スポーツ部文化振興課